報告テーマ①[2004C]

都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割

プロジェクトリーダー　中村 文彦

(1)　研究目的と概要

未来の都市のあり方を考えるにあたり、都市はサステナブルかつクリエイティブであるべきと考えられる。ニューヨーク、ロンドン、ウィーンといった例を出すまでもなく、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。派生する交通需要の受け皿、かつそれらを誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の役割を明らかにすることを目的として研究を開始した。過去 2 年度にわたり、ニューヨーク、ロンドン、ウィーンの事例調査、専門家招聘、東京および地方都市での課題整理、ウェブ調査で行動意識分析を行った。その成果をもとに、最終年度は、大都市東京、地方都市富山、途上国モデルとしてのバンコクでのケーススタディを実施し、公共交通のあり方について提言を行うことを予定して研究を開始した。なお、新型コロナウイルスの影響に伴い、海外での活動が制限されたため、途上国モデルとしてのバンコクでのケーススタディの実施を断念した。一方で、コロナ禍において、文化的活動へのアクセスがどの程度変化したのか、その影響を把握するための調査を別途実施したほか、富山市でのケーススタディについては、現地研究者、住民、現地で文化的活動に従事している人、そして現地行政機関を交えたワークショップを 2 回実施し、本研究メンバーにより作成した具体的な提案についての議論を行っている。

(2)　質疑応答

Q.　通勤通学に依存している公共交通システムの脱却を実現するためには何が必要でどういう課題があるか教えてほしい。

A.　都市部と地方部では異なってくると思うが、一つはピーク時間に需要が戻らないようにしておくような運賃や勤務体系のような何らかのしかけが必要である。

Q.　地方都市などでは利用者が少ないゆえにコストがかけられずサービスの質が落ちる結果、利用者が離れず事業性が成立しないという事例もある。どうバランスさせていけばよいか。

A.　地方都市の場合にはケースバイケースである。通学の学生が乗車しているケースから、それさえないものもある。公共交通に対しては事業者が運賃だけで賄おうとするのではなくイベント主催者や文化的活動を管理する部門の予算などで賄うことも必要であると思う。

(3)　出席者の感想など(一部抜粋)

・人と価値観からの変革に期待します。

・新たな発想の視点を提示いただきありがとうございました！勉強になりました。

・既に考える段階から実践する段階にあると思います。

※本資料は発表者本人の事前確認を行っております。また、質疑応答および出席者の感想は基本的に原文のままとしてあります。